

前回の振り返り（6分添削、4分フィードバック）

他者の気づきに

「自分だったらこう書くなあ」を書き込みましょう。

→自分の発想を相手に提供する（他人脳）

文章を見る際には

- ①結論や主張を明示できているか
 - ②大事な主張には支持文がついているか
 - ③内容が多く入れられすぎていないか
- を見てください。

創造理数探究基礎

第7回

批判を受け入れる

みなさんは適切に質疑応答ができますか

将来皆さんが発表会にいくと、必ず質疑応答の場面があります。

どのように質問をすれば良いのか

どのように受け答えをすれば良いのか

本日は上手く質疑応答するための方法を身につけましょう。

なぜ質疑応答の時間ってあるの？

質疑応答の時間がなぜあるのか
どうして必要なのか

グループの中で10分でまとめましょう。

質疑応答とは（持論）

質疑応答がない発表はただの一方通行です。
質疑応答の機会があることで

○質問する人

自分の理解を確認できる。
興味を持ったことを知ることができる。

○応答する人

自分の発表が正しく伝わっているのかを確認できる。
誤解があった場合は訂正ができる。
新たな考えや発想を得ることができる。

質問する場合の流れ

自分の所属等を名乗り、挨拶をする。



質問をするパターンは大まかに4つあります。

- ①確認 「〇〇ということであっていますか。」
- ②詳細 「〇〇についてくわしく教えてください。」
- ③理由 「どうして〇〇としたのですか。」
- ④意見 「〇〇だと思うのですがどうでしょうか。」



回答を得られたら、コメントやお礼を述べて質問を終える。

応答する場合の流れ

ご質問ありがとうございます。と感謝を述べる



質問の内容が把握できているか不安である場合
復唱したり、確認をしたりする。

「〇〇という質問でよろしいでしょうか。」



もし、**回答に困る場合**もできる限りの回答をする。

その上で、持ち帰る受け答えをする。

「今後検討させていただきます。ご意見頂きありがとうございます。」等…

批判（意見）を受け入れる

その批判は**未来思考**になっているかどうかという視点を持ってください。

批判を言う人

→改善策やアイデアを提供する。

批判をされる人

→改善点に目を向け、今後の方針とする。

未来思考でない場合、それは**批判**ではなく**非難**と言います。

本日のワーク

①グループ内で「学問探究BOOK」の自分が決めた学問内容についての紹介プレゼンをする。(3分)

※研究者になりきって説明しても良い。

②グループ内で毎回一人一回は質問をする。(5分)

※質疑応答の流れをしっかりと練習してください。

③以上を4ローテーションする。

事前準備

7時間目の開始時まで

「学問探究BOOK」の自分が決めた学問内容についての
プシゼン内容を考える。

そして想定される質問の内容を検討して事前に調査を
や対応を考えておいてください。

本日のワーク

①グループ内で「学問探究BOOK」の自分が決めた学問内容についての紹介プレゼンをする。(3分)

※研究者になりきって説明しても良い。

②グループ内で毎回一人一回は質問をする。(5分)

※質疑応答の流れをしっかりと練習してください。

③以上を4ローテーションする。